

Title	労働市場論
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.3 (1921. 3) ,p.458(148)- 459(149)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210301-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

労働市場論

The Labor Market. By Don D. Lescoier. (New York: The Macmillan Company. 1919. pp. XII. 338.)

失業問題は歐洲戦後に歐米の經濟社會を襲ひつゝある不景氣と共に、世間の注意を惹くこと著しきに至つた。然し失業問題を専門に論究した單行本は其數に於て、甚だ乏しい。ピーツェリツチ氏の失業論の如きは、其乏じきもの、内の一ツであり、殊に著者が英國労働行政に於て、權威者たることとの關係から、特に重んぜられたはうであつた。今吾人は同様の系統を追うた一新著を得た。一體労働者を一個の商品扱にして、彼等の労働條件の決定される場所を労働市場など、云ふのは、正しき事であるかどうか、往年英國で職業紹介所を労働取引所(Labor Exchange-

page)と呼んだと同じ間違ではなからうかとも考へられるが、此點は姑く措いて、本書の内容を見よう。

本書は三編十五章に分たれて居る。第一章は労働市場に於ける供給并に需要の要素を題し、著者の所謂労働市場の變動する事情から、進んで失業の原因に關する説明に入り、其原因として個人關係のものと、社會關係のものとの二ツを挙げ、救済策として生産の確實、交互的需要、労働能率の保存、救済工事等を擧げて居るが、是等は何れも救済策の發端であつて、著者が眞實労働市場に於て、需給關係を調節する方策と認めて居るものは、第二編労働市場の機關と題する所に示されて居る。即ち此編に於て、著者は前後七章を設け、戦前の労働市場、公立職業紹介所の發達、戦争と職業市場、合衆國の職業紹介、英國并に加奈陀の職業紹介制度、聯邦職業紹介、職業局に就て論述した。著者は國民をして仕事に就く機會を得るに就て、料金を負擔させるのは、不合理であると云ふ理由で、私

立の職業紹介所を排斥して居るのは、同感であるが、然も著者は一躍國立の紹介所を主張するのでもなく、寧ろ Federal-State Municipal Cooperation を稱揚して居る。是れは合衆國の政治組織に調和させる窮策であつて、著者の意は寧ろ英國并に加奈陀の中央集權的制度を可なりとするに傾けるやに見受けられる。

第三編は職業に關する特別の問題を題し、労働の分類や、農業労働者の地方的狀況を論じ、最後に失業保險の問題に就て、僅々二頁を割いて、其一端を述べて居る。本書の全體から云つて、本編殊に本編の後二章の如きは、全然省略して可なるものと考へられる。

著者は現今ツキスコニン大學の教職に居るが、以前ミネソタ州政廳で、労働行政の實際に執筆した經驗がある。本書を通じて時に一局部の事柄に止まるが、實際の事情の引抄されるのは、此爲めであつて、讀者に多少の興味を添へる。兎に角失業問題の研究者に取つては、簡單な述作ではあるが、ピーツェリツチの著書と

共に、併讀す可きものであり、又其價値はあると信せられる。(堀江歸二)

G. D. H. Cole Guild Socialism

Revised. 1920 Price 6/-

ギルド社會主義は生長しつつある社會學說もしくは社會改造の理想である。従つてそれはギルド社會主義の正統派を稱すべきものは、本書の著者ゴールの云ふ如く、存在してゐないものである。然し、ギルド社會主義者は約三つの觀點からその學說を構成したものと云へやう。その一は賃銀制度の批評である。その二は中世紀主義殊にその公正なる價格 Just Price の立場である。その三は労働組合主義の立場である。さうして著者ゴールは第三の代表者であり、且つギルド社會主義者中最も typical な人物であることは云ふまでもないことである。

今著者はその立場から近年におけるギルド社會主義の發達を参照しながら、舊著の足らざる所を補ひつゝ、本書を執筆したのである。先づ筆